

兵庫県保険医協会

但馬支部ニュース

No. 174

2025 年 4 月 25 日発行

発行 兵庫県保険医協会但馬支部

連絡先 〒 669-5346 豊岡市日高町伊府 6 6 0

谷垣医院 TEL/079-644-0010 FAX/079-644-0706

第 37 回地域医療を考える懇談会 in 但馬を開催

但馬の医療 病診連携強化と医療費総枠拡大を

協会地域医療部と但馬支部は 3 月 23 日、豊岡市民プラザで第 37 回地域医療を考える懇談会「但馬地域における医療供給体制の現状とこれから～人口減少社会における病診連携のあり方を考える～」を開催。地域の病院、診療所などから医師・歯科医師、スタッフ、市民ら 45 人が参加した。報告者からは、但馬の医療供給体制の現状や、背景にある医療政策の問題点などが指摘され、参加者は医療費拡大を求める取り組みの継続を確認しあった。



医師・歯科医師・市民ら 45 人が参加した

懇談会では、谷垣正人先生（豊岡市・谷垣医院、但馬支部長）が「豊岡市の高齢者入院事情を考える」をテーマに、黒瀬博計先生（朝来市・そよかぜ診療所、但馬支部幹事）が「但馬地域の在宅医療の実践」をテーマに、那須通寛先生（公立豊岡病院副院長）が「地域包括医療における豊岡病院の現状」をテーマにそれぞれ話題提供。

谷垣先生は、兵庫県内の後期高齢者の市町別入院率調査結果を示しながら「豊岡市の高齢者の入院受診率は、県平均や近隣の養父市・朝来市と比べても極めて低い」と指摘。「全国の中規模都市の中で豊岡市の在宅看取り率は 25.6% と最も高く、『市の在宅医療が進んでいるから』との報道もあったが、『在宅死』が多いのは実際は高齢者がターミナル期でも入院しづらいからでは」と問題提起した。

黒瀬先生は自身の法人傘下で医師 3 人とコメディカルで連携し在宅医療を
(2 面へ続く)

（1面から続く）

担っている現状を紹介しながら、「特に地方において在宅医療を広げていくためには病診連携の強化と全体のコーディネートが肝要。"地域全体で在宅医療を育む、取り組みが必須」と強調。「在宅医療を広げることで病床確保にもつながる」とした。

那須先生は地域医療構想の推移を振り返りながら「医療費削減、人口減少によって但馬地域の医療機関はこのままではお互いがジリ貧になる。当院でも急性期以外の高齢者の入院増により平均在院日数の確保が困難で、急性期を名乗るのもギリギリの状態。マンパワー不足の中、同じ医療圏内で急性期・回復期・慢性期の役割分担が必要。病診連携や地域のACP教育も進める必要がある」とした。

参加者からは「病院・診療所や介護事業所などが参加して地域で協議する場が必要と思った。今回の懇談会が今後の地域連携のきっかけになれば」「厚労省が定める二次医療圏にとらわれず、京都府北部も含めた医療供給体制の見直しが急務。政府の地域医療構想を現場の実情に即したものに变え、医療費総枠拡大を実現するためにも今日の議論を広めていくべきでは」などの発言が出された。

座長は藤井高雄先生（豊岡市・ろっぽう診療所、但馬支部副支部長）が務めた（次号感想文掲載予定）。

また、前日の移動理事会には理事者・その他役員16人が参加。黒瀬・山田支部幹事、喜井恭子支部幹事・理事が参加し、喜井先生が支部活動の報告を行った。



但馬地域の医療提供の実態を語った谷垣先生（上）・黒瀬先生（中）・那須先生（下）

ご家族・お知り合いの先生をご紹介ください

ご家族やお知り合いの先生で、まだ協会未入会の先生がいらっしゃいましたら、紹介状などのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ等は、組織部（TEL 078-393-1817）まで



健康情報テレホンサービス

【5月のテーマ】

月曜日／子どもの溶連菌感染症
火曜日／盲腸（急性虫垂炎）について
水曜日／肩こりとしびれ
木曜日／尿路結石
金土日／治りにくい水ぶくれー類天疱瘡

携帯電話（078）393-1824

固定電話（0120）979-451

※ 祝日は直前の放送日のテーマを放送します。
都合により、一部放送テーマが変更となる場合もあります。

二次元コードはこちら

★ 24 時間いつでも3分間程度の開業医の手作りの健康・医療情報を放送しています。

★ インターネットでもご覧いただけます。過去の放送分もキーワード検索できます。URL は、<http://www.hhk.jp/> 右下の二次元コードから



★ 患者さんに配布していただける放送テーマのミニチラシ（A6 サイズ）を作成しています。
送付ご希望の医療機関は事務局 ☎ 078-393-1840 まで。

「保険でより良い歯科医療」求める署名 にご協力ください



WEB 署名もご協力ください⇒



協会歯科部会は、①窓口負担の引き下げ ②保険適用範囲の拡大 ③国の歯科予算の大幅拡大を求める請願署名を行います。

窓口負担金の心配、物価高騰による生活困難などのために、歯科医療機関への受診を控える人が増え続けています。すべての国民が、いつでも、どこでも、お金の心配なく歯科治療を受けられるようにしましょう！

安全性・有効性の確立している治療や材料は、すみやかに保険に導入しましょう！
この願いを実現するためには、国の歯科医療費の総枠拡大が欠かせません。

協会・保団連は、「保険でより良い歯科医療を求める」請願署名を行い、この願いを6月下旬まで開催される通常国会に提出します。目標は1万筆です。先生方のご協力をお願い申し上げます。

まずは院長先生、ご家族、職員の皆さまで署名のご協力をお願いします。あわせて患者さんにもご協力を呼びかけていただきますようお願いいたします。

署名用紙のご注文は、(Tel 078-393-1809) まで

兵庫県保険医協会第105回評議員会のご案内

2025年4月

兵庫県保険医協会

理事長 西山 裕康

協会は第104回評議員会後の半年、医療費抑制政策を転換し診療報酬抜本的増を求める運動、保険証廃止・オンライン資格確認義務化撤回を求める運動をはじめ、診療報酬改定対策、経営対策など会員の身近な要求に応える様々な活動を行ってきました。2024年度の活動方針を協議するため、標記の会議を開催いたします。万障お繰り合わせの上ご出席いただきますようご案内いたします。

■日時 5月18日(日)13時～ ■会場 兵庫県保険医協会5F会議室

○第105回評議員会 13時～

〈議題〉2024年度会務報告と2025年度活動方針案の件、2025年度予算案の件、次期役員選出他

○特別講演 16時～

『台湾有事』を 起こさせないために

沖縄国際大学 教授 前泊 博盛 氏



高額療養費制度の改悪、OTC類似薬の保険外しなど、政府は社会保障費を抑制し、患者を苦しめる政策を進める一方で、日本の防衛費を5年間で43兆円まで増やそうとしています。この防衛費増の理由とされるのは、「台湾有事」です。実際、「台湾有事」に備えて、自衛隊の南西諸島へのミサイル配備や基地整備などが進められています。

同時に、沖縄県民、多くの住民の反対の声を無視して、米軍の辺野古新基地建設も推し進められ、沖縄は「台湾有事」に備える最前線として整備されつつあります。

しかし、本当に「台湾有事」への備えは必要なのでしょうか。また、「台湾有事」に対してとるべき施策は「防衛費増」でいいのでしょうか。日本がとるべき安全保障・外交政策について、安全保障や日米地位協定の専門家である前泊博盛先生にお話いただきます。

「まえどまり・ひろもり」－1960年宮古島生まれ。沖縄国際大学大学院教授（沖縄経済論、軍事経済論、日米安保論、地位協定論）。元琉球新報論説委員長。『沖縄と米軍基地』（角川新書）、『本当は憲法より大切な「日米地位協定入門」』（創元社）、『沖縄が問う日本の安全保障』（岩波書店）など著書・共著書多数。

返信 FAX 078-393-1802

■第105回評議員会

☐ 出席します

☐ 欠席します

■特別講演(16時～)

☐ 参加します（会場の都合上、事前の申し込みをお願いします）（ ）人

地区

氏名

兵庫県保険医協会

650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F

TEL078-393-1817 FAX393-1802 組織担当 楠